

農 業 技 術 情 報

令和8年8月1日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
J A幕別町 0155- 54-4118
J Aさつない 56-2131
J A帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町：8月1日）（ ）内は平年値

作物名	遅速 日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	—	収穫始 7/21 (7/19) 収穫期 7/24 (7/23) 収穫終 7/28 (7/27)	
馬鈴しょ	早 4	茎長 54.1 (73.6) cm 茎数 4.0 (3.7) 本/株	終花期 7/16 (7/19)
大 豆	早 3	茎長 78.3 (74.2) cm 葉数 9.7 (9.4) 枚	
小 豆	遅 3	茎長 43.8 (32.4) cm 葉数 10.3 (9.7) 枚	開花始 7/25 (7/22) 開花期 7/28 (7/25)
菜豆（金時）	早 2	茎長 54.1 (52.9) cm 葉数 4.0 (4.1) 枚	
てん菜（移植）	早 4	草丈 78.8 (65.5) cm 葉数 27.2 (26.3) 枚 根周 33.8 (31.2) cm	
てん菜（直播）	早 4	草丈 68.8 (57.5) cm 葉数 24.7 (20.3) 枚 根周 24.4 (22.9) cm	
牧草（2番草）	早 2	草丈 66.6 (63.6) cm	
飼料用とうもろこし	早 2	草丈 292.4 (280.5) cm 出葉数 18.0 (17.5) 枚	雄穂抽出期 7/24 (7/25) 絹糸抽出期 7/25 (7/27)
たまねぎ	早 3	球径 6.7 (6.3) cm	倒伏始 7/25 (7/27) 倒伏期 7/28 (8/2)

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

畑 作

< 秋まき小麦 >

1 収穫後のほ場管理(内容は 7/17 付技術情報参照)

- (1) 麦稈の処理
- (2) 多年生雑草対策
- (3) 収穫跡地の後作緑肥作付（含む「えん麦いもち病」について）

< てんさい >

褐斑病・ヨトウガの適期防除に努めてください。防除水量は 120ℓ /10a とします。

1 「褐斑病」の防除

発生が散見されています。防除間隔を空けないよう計画的に防除しましょう。

表 1 褐斑病防除例

防除時期	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
8月7～ 9日	グリーンダイセン M 水和剤 又は グリーンペンコゼブ水和剤	M3	400	21 日	5回

2 「ヨトウガ」の防除

ヨトウガは幼虫が大きくなるにつれて薬剤の効果が低減しますので、被害を確認したら速やかに防除しましょう。

表 2 害虫防除例

防除 時期	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
8月7～9日	マブリックEW	3A	4,000	前日	2回
	トクチオン乳剤	1B	1,500	30 日	2回

<ばれいしょ>

茎葉黄変が早まるほ場が見られています。また、夏疫病の発生もみられますので、できるだけ茎葉を保持するため防除に努めてください。今後、早生品種は茎葉枯凋が進んでいく時期なので、塊茎の肥大状況を確認し茎葉処理の準備をしましょう。

1 「疫病」の防除

現在発生は多くはありませんが、今後も計画的に収穫までの日数を考慮して薬剤を選択し、防除を実施してください。＊薬剤は 7/17 付技術情報参照

2 「軟腐病」の防除

軟腐病は強風や機械作業等で傷んだ茎葉の傷口から感染しやすいので薬剤防除を実施しましょう。また、生育量に応じて散布水量を調節しましょう。

表 3 軟腐病の防除薬剤例

農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	回数 (以内)
銅ストマイ水和剤	25, M1	600～800	7 日	5回
カスミンボルドー	24, M1	500～800	7 日	3回

※ローテーション防除の実施に努めましょう

※ストレプトマイシンを含む剤の使用回数は合計 5 回まで

※カスガマイシンを含む剤の使用回数は合計 3 回まで

3 「アブラムシ類」「オオニジュウヤホシテントウ」の防除

まだ収穫まで間がある中晩生種を中心に、害虫の発生状況に応じて防除を実施してください。＊薬剤の使用例は「6/17 付技術情報」を参照

4 茎葉処理

(1) 薬剤処理による方法

茎葉枯凋剤の散布は塊茎が目標の大きさに達した時期に晴天無風の日を選んで散布してください。

表 4 茎葉枯凋処理剤

農薬名	使用量 (mL/10a)	水量 (L/10a)	使用時期	使用回数 (以内)
デシカン乳剤	250～450	100	茎葉黄変始～収穫3日前まで	2回

※接触剤のため茎葉にまんべんなく薬剤を付着させる。

※茎葉黄変期前に使用した場合、枯凋が不完全になる場合がある。

※処理後2～3時間以内に降雨が予想される場合には、使用を避ける。

※生理的ストレスにより維管束褐変を生じやすいので、土壌が極端に乾燥しているときは使用を避ける。

※散布の際にはドリフトを起こさないように注意。

(2) リーフチョッパーによる方法

リーフチョッパーを使用する場合は以下の事に注意してください。

- ・茎葉処理作業は茎葉黄変期後の好天時に作業する。
- ・塊茎の損傷や緑化防止のため、刈取り高さは培土を崩さないよう地表から余裕をもたせて処理する。
- ・後部に石れきが飛散しやすく危険なので、周囲に人がいないことを確認後処理する。

<豆類>

1 大豆「菌核病」の防除

多湿条件で発病は多くなり、開花期前後に降雨が続くと多発します。開花始後10～15日目に1回目を実施し、2回目以降は発生条件に応じ10日ごとに実施します。＊薬剤は7/17付技術情報参照

2 「マメシンクイガ」「カメムシ類」の防除(大豆)

1回目防除の目安は、①成虫初発と②莢伸長始（およそ半分の株に2～3cmの莢が認められた日）両方が確認されたら、その6日後頃です。莢伸長始を観察し適期に防除しましょう。2回目防除は1回目の7～10日後に防除します。カメムシとの同時防除が可能です（表6）。

今年は豆類の生育が平年より進んでおり、マメシンクイガの発生も早いため、防除タイミングを逃さないようにしましょう。またカメムシ成虫が見られますので同時防除を行いましょう。

表5 「マメシンクイガ」「カメムシ」の防除体系例

回目	目安月日	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)
②	8月上旬	マブリックEW	3A	4,000	7日	2回
③	8月中旬	スミチオン乳剤	1B	1,000	21日	4回

※甲虫類（コガネムシ等）の食害が目立つ場合は、有機リン剤（スミチオン乳剤）を使用しましょう。

※1回目（7月下旬）または2回目にピレスロイド系薬剤（RACコード：3A）を散布するのが効果的です。

3 「さび病」の防除(小豆)

今年はまだ町内で発生を確認していませんが、罹病茎葉上の冬胞子は越冬し翌年の発生源になるため、発病を認めた場合、初期のうちに早急に薬剤散布します。

防除薬剤は「ミリオネアフロアブル」（4,000倍）ですが、菌核病・灰色かび病防除の「パレード20フロアブル」と同系統（RACコード：7）のため、連用しないよう注意します。

4 「炭そ病」の防除(小豆)

ほ場を良く観察し、発生初期から防除に努めましょう。菌核病・灰色かび病の防除時に炭そ病にも効果のある薬剤選択で同時防除が可能です。

表6 小豆「炭そ病」の防除薬剤例（炭そ病単独で防除する場合）

農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)
トップジンM水和剤	1	1,000	14日	4回

※チオファネートメチルを含む他剤との総使用回数に注意。

5 「菌核病」「灰色かび病」の防除(小豆・菜豆)

開花後に曇雨天が続くと発病しやすくなります。ほ場の生育に合わせて、適期防除に努めてください。

表7 (小豆・菜豆) 「菌核病」「灰色かび病」を中心とした防除例

回数	薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)	炭そ病
1回目	ミギワ10フロアブル	52	1,000	7日	3回	○
2回目	パレード20フロアブル	7	2000~4000	前日	3回	×
3回目	ファンタジスタ顆粒水和剤	11	2,000	7日	3回	○

※菜豆類は発生の多い場合3回目検討(インゲンマメゾウムシ対策の「バイスロイド乳剤」2,000倍と同時散布)

※さび病でミリオネアフロアブルを散布する場合、パレードと連用しないよう注意します(同系統のため)。

6 「アブラムシ類」「アスキメイガ」「ハダニ」「カメムシ」の防除(小豆)

寄生を確認したら直ちに防除しましょう。薬剤の選定にあたっては、発生害虫に効果のある薬剤を選択します。* 薬剤は7/17付技術情報参照

7 「インゲンマメゾウムシ」の防除(金時、手亡)

インゲンマメゾウムシの成虫は、7月下旬以降に出現し8月上旬～9月上旬に発生が見られ、成熟の早い菜豆が被害を受けやすくなります。防除時期は下記を目安にしてください。

- ・金時の防除時期：莢の色が抜け、白莢が見える時期（8月中旬～）
- ・手亡の防除時期：子実が大きくなり莢の色が抜け、白莢が見える時期（8月下旬以降）

表8 インゲンマメゾウムシの防除例

防除回数	農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
1回目	バイスロイド乳剤	3A	2,000	7日	3回
2回目	ダントツ水溶剤	4A	2,000	前日	3回

※1週間ごとに2回防除する

※莢全体に薬剤がかかるよう、散布水量は多めとする

<収穫から保管時の注意事項>

- ① 成熟期以降は早めに収穫する。
- ② 収穫した豆は速やかに出荷し、必要以上の長期間の保管は避ける。
(は種時に余った種子は、適正に処分する。豆の一時保管場所を清掃し、餌となる豆を一年間残さない。)

野 菜

< 病害虫発生予報(8月) >

病害虫発生予報情報(8月)です(北海道病害虫防除所 病害虫発生予察情報より)。

(1) あぶらな科野菜

①コナガ | | |-----------| | コナガ 発生量：並 | |-----------|

8月のコナガの発生量は【並】と予想されています。ジアミド系薬剤(RACコード28)の感受性低下を予防するため、本系統を含む薬剤の使用はコナガ1世代あたり1回以内にしてください。

②軟腐病 | | |-------------| | 軟腐病 発生量：やや多 | |-------------|

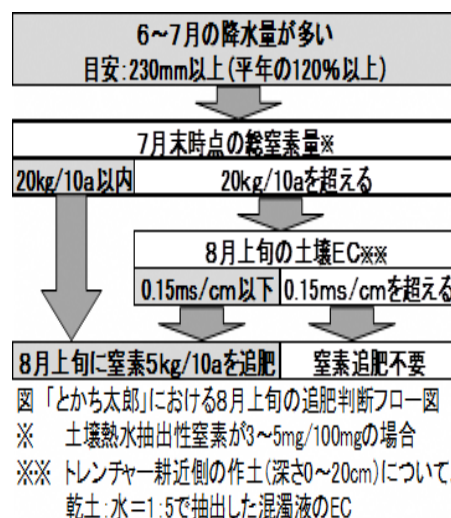
軟腐病は高温多雨条件で発生しやすくなります。耐性菌の発生を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しないようにしてください。

< ながいも >

過剰な施肥は黄変期の遅れによる乾物率低下の原因につながります。

追肥実施の目安は6～7月の降水量が230mm以上かつ7月末までの総窒素施肥量が20kg/10a以内のとき、8月上旬までに5kg/10a程度で実施してください。

6月1日～7月29日現在における積算降水量は202.5mm(糠内アメダス)となっており追肥を実施する降水量には至っていません。



< たまねぎ >

(1) 根切り作業

倒伏後は適期根切り作業により品質向上を図ってください。根切り作業の目的は変形、裂皮、皮ムケの防止や均一な枯葉、着色促進による品質の向上です。日焼け球が発生する恐れがあるため高温時の根切り作業は控えてください。

また、根切り作業後に降雨があった場合は2次発根などを防ぐため再度、根切り作業を実施してください。

～根切り時期の目安～

中生～晩生品種	「倒伏揃」後、10～14日
---------	---------------

- 「倒伏揃」は茎葉が8割以上倒伏した時期。
- 日焼け球が発生する恐れがあるため高温時の根切り作業は控える。
- 根切り作業後に降雨があった場合は再度、根切り作業を実施する。

(2) 収穫作業

収穫時の条件が悪いと土砂の付着により品質低下を招きます。ほ場状態をよく観察してから作業しましょう。根切り後は茎葉が枯葉し首部の仕上がりを確認したら早めに収穫を行ってください。

～収穫作業のポイント～

- 品質低下を防ぐため収穫作業は、晴天の土壌が乾燥している日におこなう。
- 土砂の付着による品質低下を防ぐため「ディガ」で処理をおこなう。
- 作業機の手速は上げず、低回転で作業する。
- 収穫後のコンテナは搬出しやすい排水良好な場所で風乾する。
- タッピング(茎葉切断)は首部が十分乾燥してから実施する。

～農薬の安全使用と農作業事故防止～

- ★農薬散布において「**農薬の安全使用基準**」を遵守し、散布の高さを低くし周辺作物への飛散防止に努めましょう。
- ★農薬散布時は必ず防除用マスクを身に付け、肌をしっかり覆うようにしましょう。また、散布が終わったら肌の露出部を良く洗い、うがいをしましょう。
- ★トラクタ発進・PTO 始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図しましょう。
- ★機械の調整・整備時(つまり物除去等)は必ずエンジンを止めましょう
- ★作業機を上げ点検する場合や、つまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「かませ木」や「固定脚」を用いて、下降防止に努めましょう。
- ★作業機の連結時での「挟まれ」事故や「機械昇降時の落下」事故に十分注意しましょう。
- ★機械の飛び降り・飛び乗りをしないようにしましょう。
- ★夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付けましょう。
- ★早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなどトラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにしましょう。
- ★水分と塩分をしっかりととり、熱中症に注意しましょう。

